伊東市の魅力を市民自らが世界に向けて「創造」・「発信」する拠点をつくります

地域のあらゆる情報とつながり、誰もが発信できる「まちのミュージアム」

ア)業務実施方針

伊東の入り口「まちのミュージアム」をつくる

「国際観光温泉文化都市」である伊東は、独特の地形がつくる景勝地や温泉、体験型のものづくり拠点など 魅力的な場所がまちじゅうに点在しています。

ここへ来ると伊東の全てがわかる入り口として、郷土 資料を中心に、まちのあらゆる情報を収集し再編集し て、利用者や周辺地域、世界へと発信する「まちの ミュージアム」を新施設の幹として提案します。



みんなの活動や発信が「まちの情報」になる

「まちのミュージアム」は、基本構想の③伊東市情報センター機能を拡充するものです。観光情報や郷土資料に加え、市民活動の記録や作品、SNSへの市民の暮らしの投稿や観光客の伊東での体験の投稿なども「まちの情報」として位置付けて収集、発信します。



「情報に出会う」から「情報を創る」へ

「まちのミュージアム」を訪れた人は、伊東の様々な情報に出会い、それぞれの興味に応じて活動を行い、新しいまちの情報を創ります。誰もがまちの情報の創り手となることで、基本構想のコンセプトである「夢と未来を育む図書館~ひとりひとりの創造拠点~」を実現します。



国際温泉観光文化都市として、地域一帯を盛り上げる面的な展開

カ) その他独白担安

「まちのミュージアム」では、実空間(オフライン)やオンライン上で様々な企画を行うことを想定しています。 各企画は市内の観光拠点や公共施設などと連携・協働することで、賑わいが施設内に留まらず、まち全体に広がっていきます。「国際温泉観光文化都市」の魅力の向上に、地域とともに取り組む場となります。



伊東市ならではの新しい図書館サービスを実現する

実績豊富な図書館計画主任を中心として「図書館計画」と「施設設計」を融合

本施設の基本構想に携わった図書館計画主任技術者が、これまでの経過も踏まえた諸条件を加味して、ソフト・ハード面が合致した計画を導き出します。また、数多くの図書館計画に携わった実績や、図書館職員、図書館運営マネージャー

市内外へと届く「伊東市ならでは」のサービス拠点づくり

基本構想の再精査と7つの機能の具体化・拡充により、公共施設、 観光拠点、伊豆高原駅などの交通拠点、私設図書館等と連携した 市全体の図書館サービス拠点として、「伊東ならでは」の施設整備 を行い、市内外の方々に届くサービス展開と施設を検討します。



エ)基本計画策定についての考え方

A 管理・運営及びサービス計画

伊東の歴史・文化資源を発信する配架・サービス

の経験を活かして実現性の高い計画を策定します。

郷土資料、伊東図書館が作成した貴重 な資料や絵本を図書館の中心に据え、 市民、旅行者、伊東について調べたい 方々が、訪れたくなる地域資料群の構 成と配架及びサービスを検討します。



効率良くサービスの行き届く動線

効率性と利用者サービスの充実を目指し、具体的な利用者動線や管理動線の反映と、IC タグシステムの導入による効率化と費用対効果ついての検証を行った上で、施設計画に反映します。

対面に加え ICT を活用したサービスを拡充

レファレンスや地域資料の管理など図書館本来のサービスに加え、郷土資料のデジタル化、電子図書館など、情報管理や発信の為のICTを活用したサービスを拡充します。

市民活動のアーカイブ化と発信の仕組みづくり

「まちのミュージアム」の仕組みとして、施設利用者の活動レポートや、SNS で施設の#タグをつけた投稿などをアーカイブ化し、誰もが検索して気軽に見られるシステムをつくります。



カフェ事業者の誘致と運営計画

複数の事業者に厨房・フロアの広さや位置などについてヒアリングし、出店するための条件などを詰めながら進めます。また図書館内での飲食ルールや用途についても利用者、カフェ事業者、双方にとって最も良い方策を検討します。

B 施設整備計画及び蔵書・配架計画 サービス計画を施設計画に的確に反映

利用者にとって充実したサービス、使いやすい動線を確保 したゾーニング、駐車場規模、家具、什器、ICT 関連機器等 の配置の検討によるサービスの最大化と、現実的な管理動 線の検討による効率性を両立させます。

「まちのミュージアム」を実現する蔵書構成

伊東らしさを追求した郷土資料、独自作成資料の活用を基礎とし、そこへとつながるように各フロアに関連本を配置した構成を検討します。特に、近年3,000冊出版された「伊東市」「伊豆半島」「温泉」「木下杢太郎他地域の著名人」などに関連する図書も網羅的に収集します。

配架計画による蔵書設定

全体の配架計画は、管理面や検索面でメリットの高い NDC 分類を基本としながらも、施設内にテーマでとのコーナーを散りばめることによる市民の回遊性と出会いを生み出します。これらを踏まえ、図書館の根幹となる蔵書目標および諸室構成を再精査し、蔵書規模および蔵書規模および蔵書規模および蔵書規模目標を設定します。



C 事業計画・開館準備計画

基本計画策定後も継続した検証を実施

基本計画段階のコスト算出だけでなく、計画策定後も設計 に合わせ検証を続けます。計画するサービス実施内容を踏 まえながら、実現のための運営体制を算出し、その上で運 営形態についてもメリット・デメリットを検証の上、市民 の皆様にとって最適な形態を検証していきます。



トータルな事業費の算出

資料費、ICT 関連費用、移転費用など施設整備以外の分野についての費用も庁内における総事業費の検討が行えるよう、早期に算出します。

スムーズな移転計画

移転スケジュールについては、現図書館等の閉館と新図書館の開館のタイムラグを少なくし、スムーズに新図書館の開館を迎えるためのスケジュールを検討します。移転方法、閉館時の代替サービスの提供、開館後の購入・除籍のシミュレーションを踏まえた収集方針と、新館での詳細な配架計画を検討します。

運営計画と移転計画の整合性の調整

基本計画策定後も、運営方法について庁内で決定するためのメリット、デメリットの検証の継続と、設計が進んでいく中で、設計内容とサービス内容の整合性の調整、具体的な移転計画などの検証を続けていきます。

高度な専門性を有するメンバーによるコラボレーション

公共施設や図書館等同種施設の実績が豊富なメンバー構成とします。また、構造・設備主任技術者は世界規模のエンジニアリング事務所に所属し、高度な技術力を有します。更に専門家とのコラボレーションによって質の高い計画を実現します。

窓口の一元化と協働実績のあるチームによるスムーズな情報共有

高度なメンバーシップによる対話型のプロセス

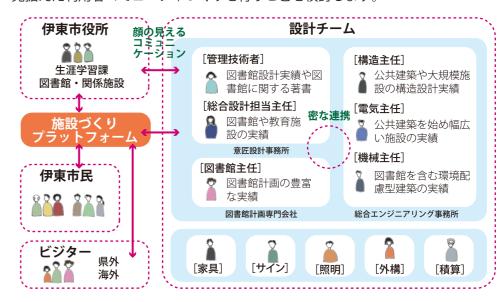
窓口を管理技術者に一元化することで、伊東市ご担当者様との情報共有を円滑にします。また、これまでにも協働経験のあるメンバー構成とし、設計チーム内もスムーズなコミュニケーションが可能です。

顔の見えるコミュニケーションを重視し、様々なツールを併用

対面での情報共有を重視し、伊東市での定期的な打合せを設定します。更にオンラインツール等の併用により、タイムリーな情報共有を可能とします。

市民への情報発信と、施設への関わり代となるプラットフォームづくり

新施設のオンラインプラットフォームをつくり、計画の情報の発信と、開館後を 見据えた利用者コミュニティづくりを行うことを検討します。



まちのミュージアムを「幹」に、伊東の環境とつながる活動の「丘」/ 学びの「森」をつくります

ア)業務の実施方針

伊東の生命力のある自然環境と有機的につながる

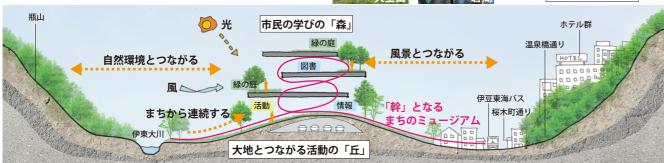
まちのミュージアムを「幹」として施設全体と街がつながる

施設全体を結ぶように「まちのミュージアム」をつくります。巡る体験がそれぞ れのフロア同士の連携を生み出し、フロア内で様々な情報を繋げます。さらにま ちに開くことにより、伊東の自然環境や風景とつながる空間をつくります。

伊東の豊かな環境を象徴する大地とつながる活動の「丘」/市民の学びの「森」

火山活動や地殻変動により隆起してできた伊豆半島の 大地と連続する力強い緑の丘をつくり、伊東ならでは の活動の場を生み出します。また、樹木のような有機 的な放射状のプランは、情報・活動・環境が混ざり合う、 市民の新しい学び場となります。





こどもの庭 まちかど広場

災害に強く、低層で使いやすい建物配置

丘の上を1階とする

丘をつくり 1 階を持ち上 げることで、主な図書フ ロアを想定される浸水ラ インよりも上に配置し、 本や資料を守ることがで きる計画とします。

駐車場 GF

使いやすい平面駐車

駐車場は、116 台設け、 主に地上レベルの平面駐 車とすることで利用しや すい計画とします。上階 の丘の一部は臨時駐車場 として利用可能です。

景観に配慮した建物

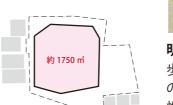
斤の下に駐車場を配置し て車の見え方に配慮しま す。また、メインフロア を 3 層として建物を低層 化し、外周を緑化するこ とで景観に配慮します。

使いやすい建物形状

力)建物配置計画

ゆとりのある平面サイズ とすることで、自由度の 高い計画が可能です。メ インフロアを 3 層とする ことで、利用しやすい計 画とします。





丘下駐車場 +3 層建物 (今回提案) 5層建物+立体駐車場(基本構想想定案) 平面イメージ 断面イメージ 4層(約20m) 5層(約25m) 建物高さ 丘によって駐車場が外から見えにくい 立体駐車場が外から見えてしまう \triangle 駐車場利便性 平面駐車の為、利用しやすい 立体駐車の為、上下移動が不便 浸水レベルより上に図書や資料を計画可能 1F に図書や資料が計画できない \triangle 浸水対応の計画 地上レベルからの EV 利用と丘の散策路 地上レベルでメインフロアにアクセスできる 広場の確保 丘の上にゆったりとした広場を計画可能 建物と立体駐車場によって広場範囲が決まる 地上レベルに駐車場を設け施工床面積を合理化 立体駐車場のスロープにより施工床面積大

アクセスしやすいスムーズな歩車動線と親しみやすい顔づくり

地上階にわかりやすい建物の顔をつくる

地上階に、観光情報、カフェ、ショップを核と した魅力的な建物の顔をつくります。



明快な歩車分離と将来交通計画への配慮

歩行者動線と車両動線は明確に分離し、安全性 の高い計画とします。将来のバス停の設置可能 性を考慮した車寄せを設置します。





力)建物配置計画

ゆるやかにまちと繋がり、豊かな居場所をつくる「丘

接地した「斤」から、階段やスロープ、EV 等 で丘の上の 1F にスムーズにアクセス可能です。

子どもが楽しく遊べる「だんだん広場」

道路より少し上のレベルに、子ども達が自由に遊 ぶことができる斜面と一体的な遊具を設けます。

イベントにも利用できる「屋根下広場」

小ホールやものづくりスペースに面した屋根下 広場は、イベントや遊び場として利用できるま とまったスペースとなります。

施設全体に展開する「立体的な庭」

各フロアには、それぞれ特徴を持った屋外テラ スを設けます。気候の穏やかな伊東市ならでは の気持ちの良い屋外空間となります。



テーマ毎の「コーナー」と全体をつなぐ「まちのミュージアム」で7つの機能を融合します

テーマ毎の図書・活動を繋ぎ機能を融合する

才) 施設計画

ICT

活動 学習

まちのミュージアム

ティーンズ活動__ - 児童

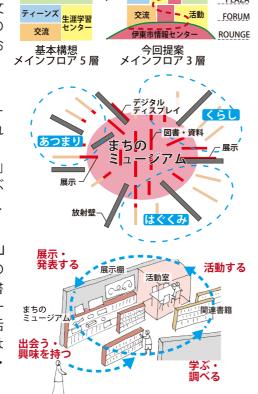
「3 フロアの構成」と「まちのミュージアム」によって機能の連携を生み出す。

メインフロアを 3 層として平面サイズににゆとりを持たせることで、フロア内での各機能の相互連携を生み出しやすい計画とします。また、伊東の郷土資料や文化財など、まちの情報の集まりとしての「まちのミュージアム」が基本構想における 7 つの機能の融合を促します。

情報がつながる「放射状のプラン」

放射状の壁配置によって、外周部にテーマ毎のコーナーをつくり、中央からそれぞれにアクセス可能な計画とします。 さらに、中央の「まちのミュージアム」によって、各テーマの図書や展示を結ぶことで、分野毎の関連性をつくり出し、利用者の興味の連鎖を生み出します。

活動・情報が一体となった「コーナー」 それぞれの「コーナー」には、放射状の 壁に寄り添うように活動室や関連する書 架を配置します。資料と活動の空間を一 体的につくることで、利用者の関心と活 動の連携を生み出します。また、壁面は 書架・展示棚・デジタルディスプレイ・ サインなどの拠り所として機能します。



機能性の高い計画

才)施設計画(利用者・管理者動線、業務効率化、利用環境)

階層による音のゾーニング

低層階(賑わい)から上層階(静寂)へと音のゾーニングを計画します。

館内のオープンスペースは、多様な交流を促すためにコミュニケーションをとることを前提とし、個室によって選択的に静寂性を確保できるものとします。

わかりやすい利用者動線

わかりやすいエレベーターの配置、繋がりが 空間的に視認しやすい階段の計画とします。

効率の良い管理動線

管理動線は、搬入・各階の事務エリアと直結した効率の良い計画とします。3Fの閉架書庫は事務エリアと一体的に計画します。

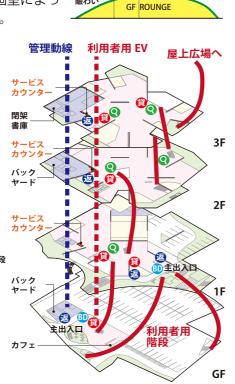
見通しの良い放射状プラン

放射状のプランに よって、カウンター から各コーナーへの 視認性の良い計画と します。



職員配置の効率化

メインフロアを 3 層とし、最終退館口を 2 箇所に限定することで、効率的な人数で運営可能とします。



3F FIELD

2F PLAZA

1F FORUM

_ ┌活動室

返 自動返却機 BD BDS

赤字: まちのミュージアム



特徴的なフロア構成

才)施設計画(各階)

3F FIELD / 知の集積を活用する場

開架や閉架を併せた沢山の図書やデジタルアーカイブ、特徴的な活動室によって、様々な知が集積し、好奇心を促す場とします。



2F PLAZA / 多世代の交流の場

こどもの空間を中心として、有機的な書架配置や、 様々なスタイル閲覧席、交流ルームなどによって、 多世代の様々な交流を促します。



1F FORUM / 丘とつながる創造の場

ファブスペースやスタジオ、小ホールなどのアクティブな機能と関連書籍を配置し、活動的な丘と連続し 多様な創造が生まれる場とします。



GF ROUNGE / 施設の顔となる憩いの場

観光を含む「まち情報」を発信する棚とカフェ・ショップを連携することで、気軽に立ち寄ることができる新施設の顔となる場とします。



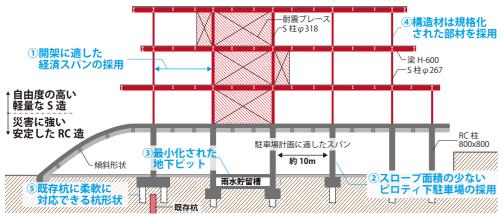
「トータルな事業費コントロール」「ソフト・ハード一体の工程管理」により確実に業務遂行します

バランスの良い適材適所の構造計画

キ) イニシャルコスト低減手法

十分な耐震性を備え、イニシャルコストに配慮した構造

上部・下部構造に対して適材適所の形式を使い分けることで、十分な耐震性能を 確保した上で、計画の自由度が高く、コストの合理性を確保した計画とします。 メインフロアを構成する上部構造は、図書空間に求められる多様で自由な空間を 構成構成しやすい、軽量な S 造とします。人工地盤(丘)を構成する下部構造は RC 造とし、斜面形状や人工土壌がつくりやすい構成とします。また、柱配置は 駐車場配置に併せて合理的に計画します。



適材適所の構造形式とコスト合理化の5つのポイント

金額 (千円)

データベースを活かしコストバランスを適正化

同種建物のコスト実績値 や最新の物価動向を分析 し、各工事種別の金額が 妥当な構成比となるよう な計画とします。

その上で、仕様のグレー ドを検討し、全体コスト を適正化します。

建	築工事					
	直接仮設工事	41,000	1.8%			
	土工事	60,000	2.7%			
	地業工事	64,000	2.8%			
	躯体工事	603,000	26.7%			
	外部仕上げ工事	362,000	16.0%	共通仮設費	92,000	4.1%
	内部仕上げ工事	250,000	11.0%	現場管理·一般管理費	308,000	13.6%
電気設備工事費		158,000	7.0%	諸経費合計 B	400,000	17.7%
空調設備工事費		237,000	10.5%			
衛生設備工事費		52,000	2.3%	A+B 合計	2,260,000	
昇降機設備工事費		33,000	1.5%	消費税	226,000	
直接工事費計 A		1,860,000	82.3%	工事費合計	2,486,000	

伊東の豊かな気候風土が生み出す最先端の環境配慮型図書館 キ)ランニンクコスト低減チ法

伊東の自然環境を活かす

3つの省エネルギー手法

1)自然エネルギーの利用

3 最新の高効率システム

②環境負荷の抑制

「ひだ」や緑が

を遮る

効果的に直射光

計画地は年間を通じて日照時間が長く、北東から南西を結ぶ明瞭な風の 軸が特徴的です。伊東の歴史や文化を支える温暖で穏やかな気候風土が、 伊東だからこそ実現できる唯一の環境配慮型図書館を生み出します。

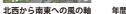
豊かな日照が発電に貢献する

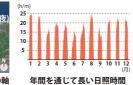
~太陽光発電

·····

The state of the s

雨水貯留槽





「ひだ」が室内環境を操る放射状プラン

各階で放射状に配した壁面は、室内環境を整えるための「ひだ」としての役割を持ちます。この「ひだ」は、 柔らかい日射の制御・自然通風の誘引・緑のバッファーの形成など、内外の豊かな関係を生み出します。



デリベント /□→

活動に応じた光環境

窓外の「ひだ」や緑が適度に自 然光をやわらげ、窓際では明る く開放的な視環境を、一方室内 では控えめで落ち着いた明るさ が続きます。活動の性質に応じ た光環境を実現します。 豊富な雨水を再利用

「ひだ」が促す

居住域だけを効果的に

調整する床輻射冷暖房

Low-E ガラス

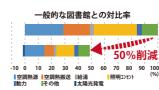
風況豊かな 動線エリア

積極的な自然通風

北東や南西から流れる卓越風を 各方位の「ひだ」が捉え、室内 に豊かな変化に富んだ風の道を 生み出します。冷涼かつ、感染 症対策にも効果的な環境がつく られます。

一次エネルギー消費量 50% 削減を実現

これらの環境技術を組み合わせ て大幅な省エネと ZEBready を 実現し、Nearly ZEB(75% 減)も 視野に入れた計画とします。



ローメンテナンス化 キ) ランニングコスト低減手法

成長の遅い樹種の選定、保水性の高い土壌の採用、雨 水を利用した自動潅水設備の導入などにより、植栽の 維持管理の負担の少ない計画とします。

清掃・更新の容易な計画

維持管理の容易な植栽計画

長寿命・メンテナンスフリーの素材の採用、窓面の 清掃に利用できるバルコニー、点検しやすい集約型 設備スペースなど、維持管理しやすい計画とします。

全体事業費のコントロール +)事業費低減手法

全体事業費を的確に調整

新館でのサービス内容を具体 的に検証し、総コストを算出 します。実運用を見据えなが ら、市の予算要求時期に合わ せて年度ごとに適切な計画策 定スケジュールとコストを算 出し、調整を図ります。



3層フロア +ICT 導入による運営費の削減

基本構想の 5 層に対して、メインフロアを 3 層とし て 1 フロアの面積を広くとることで、ランニングコ ストへの影響の大きい運営費用を 11%縮減します さらに利用者動線や管理動線を踏まえた適切な IC タ グシステムの配置を組み合わせることで、5年間で 17%の運営費用縮減を図ります。(システム導入費込)

運営費+IC タグシステム費	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	合計
運営「GF+3 層」+IC あり	90%	81%	81%	81%	81%	83%

※[運営「5層」+ICなし] に対しての比率

ウ)業務工程表

図書館計画(ソフト)・施設計画(ハード)の連携によるスムーズかつ確実な業務進行

HP(ホールドポイント)の設定による手戻りのない工程管理

計画の各フェーズにおいてホールドポイントを明確に定め、関係者に共有します。 ホールドポイントを確実に遵守し、関係者間で密に連携することで、事業の遅延 を防ぎ確実に業務を進行します。

節目毎の概算・積算による確実なコストコントロール

コスト管理については、概算・積算を「施設規模等決定時」、「基本設計方針確定時」、 「実施設計完了時」の計 3 回行い、必要な仕様調整を計画にフィードバックするこ とで、事業計画の確実性を確認しながら計画を進めます。

図書館計画(ソフト)と施設計画(ハード)の一体的な計画

図書館計画と施設計画を 一体に行うことで、ソフ トとハードが融合した、 整合性が高く、質の高い 計画を実現します。

	図書館計画(ソフト)	施設計画(ハード)
施設規模	冊数、収集資料、 必要諸室・機能等	施設面積、階構成、 施設イニシャルコスト等
全体方針	運営計画、 図書館システム等	ゾーニング、配架計画、 家具サイン等
運用方針	維持管理計画等	仕様、セキュリティ計画、 施設ランニングコスト等

基本計画策定後の継続的な検証

基本計画の策定後も、施設計画の進捗にあわせて、図書館計画の内容との整合性 を確認し、継続的に調整を行います。的確なフィードバックによって、実効性の 高い事業計画・管理運営計画を実現します。

